

## 第6学年 国語科学習指導案

### 1. 単元名 筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう

「平和のとりでを築く」「自分の考えを発信しよう」関連教材「平和への誓い」

### 2. 指導の考え方

#### ○ 子どもの実態

本学年の子どもたちは、これまでに、「カレーライス」「やまなし」という2つの物語文と「生き物はつながりの中に」という説明文、「森へ」という紀行文を学習している。「カレーライス」では、主人公ひろしのお父さんに対する気持ちの変化を、叙述に即して読み取る学習をした。「やまなし」では、文章構成の意図を考えたり、宮沢賢治の一生を描いた「イーハトーブの夢」とつながりながら、主題をとらえる学習をした。また、説明文「生き物はつながりの中に」では、ロボットの犬と本物の犬を比べながら生き物の特徴をとらえ、要旨をとらえる学習をした。「森へ」では、最終段落に書かれている「森はゆっくりと動いているのでした。」を中心に、筆者の森に対する見方の変化を読み取る学習をしている。

これらの学習を通して、子どもたちは、文脈の中で叙述をたどり結んだり、文章構成の意図を考えたりしながら、主題や要旨をとらえることができるようになってきている。しかし、作者や筆者の考えを受け止め、それぞれの主題や要旨に対して自分の考えを深める段階になると、なかなか考えが深まらず困っている子どもも見られる。

#### ○ 教材の特質

本単元は、説明文「平和のとりでを築く」と「書くこと」の教材「自分の考えを発信しよう」から構成されている複合単元である。まず、説明文で身につけたい読みの基礎・基本の力としては、「事実と感想、意見などとの関係を押さえ、的確に要旨をとらえること」が挙げられる。その際、筆者がどのような事実を事例として挙げて理由や根拠としているのか、またどのような主張を行っているのかを筆者の意図や思考を想定しながら読み取らせ、自分の考えを持たせる。そして、それぞれの考えを話し合っていくようにする。

話し合い活動では、「話すこと・聞くこと」の中学年の指導事項エ「話の中心に気をつけて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること」を受けて、高学年の指導事項エ「話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること」を活用して、自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連して考えたことなどを整理し、伝え合うことができるようにしたい。

また、「自分の考えを発信しよう」では、「書くこと」の指導事項イ「自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること」やウ「事実と感想、意見などと区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」を書き方のモデルなどを提示して、確実に習得させるようにしたい。

#### ○ 指導にあたって

本単元は、「平和のとりでを築く」で筆者の考えを受け止めた後、平和について、自分なりの考えをもち、発信していくことが求められている。しかし、筆者の考えをとらえただけでは、誰に、どんなことを発信すればよいのか難しい子どもも多いと考えられる。

そこで、言語活動例「自分の課題を解決するために、意見を述べた文や解説の文章などを利用すること」を取り入れる。本単元では、平和式典で読まれた「平和への誓い」を教材文として利用する。自分と同じ6年生が書いた作文で、誰が、誰に、どんなことを誓っているのか読み取り、説明文の筆者の考えとの共通点や相違点などを考えることで、これから自分が誰に、どんなことを発信すればよいのかははっきりさせることができると考える。

### 3. 単元目標

- 「平和のとりでを築く」で筆者が伝えたいことを読み取るとともに、「平和への誓い」と比べて読むことで、戦争や平和に対する見方や考え方を深めることができるようにする。
- 文末表現、書き表し方の違い、中心となる言葉を読む読み方を活用しながら、自分の知識や他の教材とつないで、筆者の伝えたいことをとらえる読み方を身につけることができる。
- 「平和」についての自分の考えを明確に表現するために、事実と意見を区別して書いたり、効果的な文章の組み立てを考えて書いたりすることができるようにする。

#### 4. 単元構成図

- 「平和のとりでを築く」で筆者が伝えたいことを読み取り、さらに「平和への誓い」と比べて読むことで、戦争や平和に対する見方や考え方を深めることができるようにする。
- 文末表現、書き表し方の違い、中心となる言葉を読む読み方を活用しながら、自分の知識や他の教材とつないで、筆者の伝えたいことをとらえる読み方を身につけることができる。
- 「平和」についての自分の考えを明確に表現するために、事実と意見を区別して書いたり、効果的な文章の組み立てを考えて書いたりすることができるようにする。

#### 自分の課題を解決するために、意見を述べた文や解説の文章などを利用すること

##### 単元名から学習の見通しをもつ

<単元の構え>

筆者の考えを受け止め、戦争や平和に対しての自分の考えを深め、発信しよう。

- 単元名やリード文、題名から学習の構えをもつ。
- 単元構成を確かめ、最後に考えを発信するという学習の見通しをもつ。

##### 題名と冒頭から読みのめあてをつくる

<読みのめあて>

- ①原爆ドームは世界遺産の仲間入りを果たすまでにどのような年月をたどってきたのだろう。
- ②平和のとりでを築くで筆者は何を伝えたいのだろう

##### 全文を読み、自分なりの予想をもつ

- 全文を読み、意味段落に分けて文章構成をとらえる。
- 読みのめあて①について、年表にしてまとめる。
- まとめの段落に着目させて、筆者が伝えたいことを考える。

##### 筆者が伝えたいこと（要旨）をとらえる

- 戦争は～記されているを中心文に、なぜ戦争は人の心の中で生まれるものといえるのか、これまでに学んだ歴史学習などをつないで確かめる。
- 「～世界の遺産なのだ」とは、原爆ドームに対する筆者のどんな考えを表しているのか、「世界遺産」「記念碑」などのことばと比べて確かめる。

<確かめる視点>

- ①「それを見る人」とはだれのことなのか
- ②世界遺産ではなく、「世界の遺産」という言い方をしているのはなぜか
- ③「平和のとりでを築く」とはどういうことなのか

「話すこと・聞くこと」エ  
話の中心に気をつけて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。(活用)

「話すこと・聞くこと」エ  
話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる(習得)

##### 平和について、誰に、どんなことを発信すればよいのか考える

- 「平和への誓い」を読んで、誰が、誰に、どんなことを誓っているのか、読み取る。
- 「平和への誓い」と「平和のとりでを築く」を比べて読み取ったことをもとに、どんなことを発信すればよいのか確かめることができる。

「書くこと」イ  
自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。

##### 平和についての意見文を書く

- 考えていること（要旨）を短く書く
- 考えが明確に伝わるように材料を集める(具体例や同じ考えの資料など)
- 材料をもとに、もう一度要旨をまとめ直す
- 要旨を展開するための構成を考え、意見文にまとめる

「書くこと」ウ  
事実と感想、意見などと区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

## 5 . 学習計画

時	学習活動と内容	指導上の留意点（※は他の領域との内容の関連）
1	1 単元名やリード文、題名から学習の構えを持つ。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           &lt;単元の構え&gt;            筆者の考えを受け止め、戦争や平和に対しての考えを深め、発信しよう。         </div>	○ 事前に戦争や平和に関するニュース番組を視聴したり、新聞を読んだりさせておく。それらを引き出したり、長崎への修学旅行での学習内容を想起させたりしながら単元の学習の構えをもたせる。  ○ 戦争や平和に対しての自分の見方・考え方を書きまとめさせておく。(道徳などで) ○ 教科書を使い、本単元が説明文の読み→自分の考えの発信という構成になっていることをとらえさせ、学習の見通しをもたせる。
2	1 題名を読む。 2 冒頭（形式段落①）を読む 3 題名、冒頭の読みをつないで、読みのめあてをつくる。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           &lt;読みのめあて&gt;            ① 原爆ドームは、世界遺産への仲間入りを果たすまでに、どのような年月をたどってきたのだろう。            ② 「平和のとりでを築く」で、筆者は何を伝えたいのだろう。         </div>	○ 題名を読み、題名からわかることや、疑問に思うことを話し合い、冒頭を読む必要感を持たせる。 ○ 冒頭には「平和のとりでを築く」という題名につながる説明はなく、この説明文が原爆ドームを題材に述べられていることをとらえさせる。 ○ 冒頭で、筆者が「わたし」という語り手として登場していることに着目させ、何か伝えたいことがあることをとらえ、読みのめあてをつくらせる。
3	1 全文を読み、意味段落に分けて、文章構成をとらえる。 2 読みのめあて①に対して「原爆ドームがたどった歴史を年表にまとめ整理する。	○ 形式段落を意味段落に分け、意味段落のつながりを考えさせる。 ○ 原爆ドームが世界遺産の仲間入りを果たすまでにたどった年月について、必ず落としてはいけないキーワードを見つけて、年表にまとめさせる。
4	3 予見①について確かめる。	○ 文章構成や文末表現、時を表す言葉や「保存」「世界遺産」というキーワードをもとに、事実を正確にとらえさせる。
6	1 読みのめあて②に対する自分の読みを書きまとめる。	○ 形式段落⑫と⑬の中の叙述を抜き出して、まとめるように助言する。
7	2 書きまとめたものをもとに話し合い、予見を方向付ける。	○ 題名の「平和のとりでを築く」という言葉に目を向けさせたり、文末表現の違いに目を向けさせたりして、⑬段落を中心に学級の予見をまとめる。
8	1 ⑬段落を中心に筆者の伝えたいことを明らかにする計画を立てる。	○ ⑬段落の最後の一文に着目させ、筆者の書き表し方に課題意識を持たせる。
9	1 筆者の伝えたいことを読み確かめる。	○ まとめの段落の一つ一つの叙述を読み取らせ、読み確かめるポイントを確認する。

		<p>&lt;読み確かめるポイント&gt;</p> <p>① 「それを見る人」とは、だれのことなのか。</p> <p>② 「世界遺産」ではなく、「世界の遺産」となっているのはなぜか。</p> <p>③ 「平和のとりでを築く」とは、どういうことか。</p>
10	2 読み確かめるポイントにそって自分の考えを書きまとめる。	○ それぞれのポイントについて、根拠を明らかにしながら書きまとめさせる。
11	<p>1 前時に書きまとめたものをもとに話し合う。</p> <p>○ 「それを見る人」の中には自分や未来の人も含まれていることを読み取ること</p> <p>○ 制度としての「世界遺産」というだけでなく、多くの人の平和を願う思いが込められている貴重な遺産であることを読み取ること</p> <p>○ 「平和のとりでを築く」とは、心の中の怒りや欲などを押さえ込み、戦争は絶対に許さないという強い気持ちを持つということを読み取ること</p> <p>2 話し合いで明らかになったことを書きまとめる。</p>	<p>※ 一人一人の読みの違いを生かして、それぞれの読み取りとその解釈を聞き合う中で、筆者の伝えたいことをより確かに受け止めさせる。</p> <p>○ 「世界の遺産」の「の」に着目させることで、制度としての「世界遺産」だけではなく、「世界の人々にとって大切な」という意味をとらえさせる。</p> <p>○ 「なのだ」という文末に着目させることで、筆者の強い思いを感じとらせる。</p> <p>○ 「平和の～」の「の」の意味を、これまで読み確かめたことをもとに、言葉を補い、筆者の伝えたいことを書きまとめさせるようにする</p> <p>※ 友だちの読みや考え、感想とつないで、自分の読みや考え、感想の深まりを書かせる。</p>
12 13	<p>1 「平和への誓い」を「平和のとりでを築く」と比べながら読み、誰が、誰に、どんなことを誓っているのか自分の考えを書き込む。</p> <p>2 前時に書き込んだことをもとに、話し合い、自分達が、誰に、どんなことを発信すればよいのかはつきりさせることができる。</p>	<p>○ 広島の子が書いた「平和への誓い」を読み、最後の一文を中心文として、誰が、誰に、どんなことを誓っているのか、読み取ったことを書きまとめさせるようにする。</p> <p>○ どの叙述から考えたのか、問い返していき、根拠を明らかにしていくようにする。</p> <p>○ 「平和のとりでを築く」で筆者が伝えたかったことと比べ、自分たちが誰に、どんなことを伝えればよいのか確かめる。</p>
14 15 16 17 18	<p>1 現在の自分が考えていることを「仮の要旨」としてまとめる。</p> <p>2 「仮の要旨」の考えが明確に伝わるように材料を集める。</p> <p>3 材料をもとに、もう一度「仮の要旨」を見直して「確定した要旨」をまとめる。</p> <p>4 「確定した要旨」を展開するための構成を考え、意見文にまとめる。</p>	<p>※ これまで学習したことをもとに、自分が戦争や平和について考えたことを書くように助言する。</p> <p>※ 必要に応じて教科書「インターネットと学習」を読み、効果的に資料を収集できるようにする。</p> <p>※ 自分の考えの根拠とする事実や引用をはっきりさせるように指導する。</p> <p>※ まとまりごとに見出しをつけさせるなどして、そのつながりを考えさせ、効果的な組み立てを考えられるようにする</p>

## 6. 本時の目標

- 「平和への誓い」を「平和のとりでを築く」を比べて読み、誰が、誰に、どんなことを伝えようとしているのか読み取ることができる。
- 「平和への誓い」を「平和のとりでを築く」を比べて、読み取ったことをもとに、これからどんなことを発信すればよいのか確かめることができる。

## 7. 本時指導の考え方

子どもたちは、最終段落の「原爆ドームは、それを見る人の心に平和のとりでを築くための世界の遺産なのだ。」という叙述をユネスコ憲章の前文の引用や自分の知識、経験とつなぐことで、大牟田さんの考えを受け止める学習をしている。本時は、単元の課題にもどり、筆者の考えを受け止めた自分が、誰に、どんなことを発信すればよいのか考える学習である。

そこで、単元の課題を解決するために、言語活動例を活用し、広島市の六年生が書いた「平和への誓い」を教材として提示した。この文は今年度の平和記念式典で、広島市の小学六年生の二人が読み上げた文章である。前時に「平和のとりでを築く」で筆者の考えを受け止めた子ども達に、広島で生活している小学六年生が平和についてどんなことを考えているのか、関心を持たせ、この文章を紹介している。そして、この文章が、誰が、誰に、どんなことを誓っているのか考えることで、二人と同じ六年生である自分が、誰に、どんなことを発信すればよいのか、より確かにすることができるという見通しを持っている。

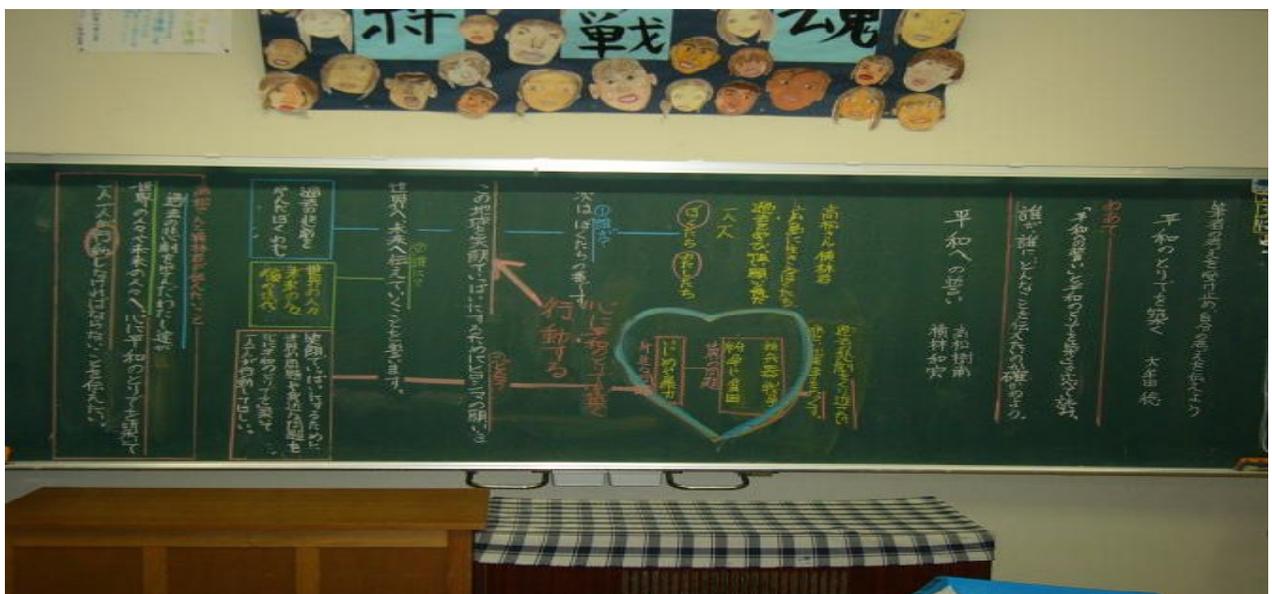
さらに、前時まで子どもたちは、「平和への誓い」の最後の一文を中心文として、①「ぼくたち」とは誰のことなのか②「伝えていく」のは誰に伝えていくのか③「ヒロシマの願い」とは、どんな願いなのか、読み取ったことを書きまとめている。

そこで、本時では前時で書き込んだ子どもたちの考えをもとに話し合いを進めていく。その際、それぞれの読みを把握し、読みの違いを生かしながら話し合いを展開するように留意する。また、どの叙述から考えたのか、根拠を上げながら発表するように助言し、これまでの話し合いの学習で身につけた力を十分に活用できるようにしたい。

さらに、「ヒロシマの願い」とは、どんな願いなのかを確かめる際には、「平和のとりでを築く」で学習したこととつないで、「強い願いを持つ」という叙述をより具体的に確かめられるようにする。

最後に、学習のまとめとして、「平和のとりでを築く」で筆者が伝えたかったこととの共通点や相違点、そこから考えたことを書きまとめ、次時からは自分たちが何をしていくべきなのかを考えることを確認する。その際、三つの視点ごとに整理して色を分けて板書しておき、板書を見て書きまとめることができるように留意する。

## 8. 板書計画



9 . 本時の展開 (13/18)

学習活動と内容	指導上の留意点 (※は他の領域との内容の関連)
<p>1 めあての確認をする。</p> <p>○ 本時学習の見通しをもつこと</p> <p>〈学習のめあて〉</p> <p>「平和への誓い」を「平和のとりでを築く」と比べて読み、誰が、誰に、どんなことを伝えたいのか確かめよう。</p>	<p>○ 本時学習で何をどのように話し合っていくのか、何を深めていくのかを確かめ、学習の見通しをもたせることができるようにする。</p>
<p>2 「平和への誓い」は、誰が、誰に、どんなことを伝えたいのか確かめる。</p> <p>(1) 「ぼくたち」とはだれのことなのか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高松さんと横林君</li> <li>・広島に住む人たち</li> <li>・<b>過去を学び、強い願いを持った一人一人 → ぼくたち・私たち</b></li> </ul> <p>(2) 誰に「伝えていく」のか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界中の人々</li> <li>・未来の人々 (これから後の世代)</li> </ul> <p>(3) 「ヒロシマの願い」とはどんな願いなのか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・争いがなくなること</li> <li>・みんなが笑顔になること</li> </ul> <p>→そのために 心に平和のとりでを築く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未来を平和に導く<b>行動をすること</b></li> </ul> <p>3 誰が、誰に、どんなことを伝えたいのかを「平和のとりでを築く」と比べて、自分たちがどんなことを発信すればよいのか確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>平和について学んだ自分たちが</u></li> <li>・<u>世界中の人々や未来の人々に</u></li> <li>・<u>心に平和のとりでを築き、平和に導く行動をすること</u></li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>どんな心にとりでを築き、どんな行動をしていくのか 伝えなければいけない</p> <p>4 学習を終えての感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①「平和への誓い」から読み取ったこと</li> <li>・②これからどんなことを発信するのか二つの視点から書きまとめる。</li> </ul>	<p>○ 前時に書き込みをさせておき、それぞれの読みを把握し、読みの違いを生かしながら話し合いを展開する。</p> <p>○ どの叙述から考えたのか、根拠を上げながら発表するように助言し、それぞれの読みが伝わるようにする。</p> <p>※話すこと・聞くことエ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる</p> <p>○ 平和のとりでを築くで学んだことと比べ、争いをなくし、みんなが笑顔になるためにはどうすればよいか考えさせ、自分たちにとって身近ないじめや暴力を起こす心にもとりでを築かなければいけないことに気づかせる。</p> <p>○ 「平和のとりでを築く」の学習で、読み取った大牟田さんの考えを、板書に位置づけ、比べやすいようにする。</p> <p>○ それぞれの考えは、三つの視点ごとに色分けをしてサイドラインを引いておき、視覚的に気づきやすいようにする。</p> <p>※話すこと・聞くことエ 話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる</p> <p>○ 三つの視点ごとに整理して色を分けて板書しておき、板書を見て書きまとめることができるように留意する。</p> <p>※書くことウ 目的や意図に応じて、簡単に書いたり、詳しく書いたりすること</p>